2010年度 応用人間科学研究科教員研究テーマー覧				
氏 名	職名	専門分野	研究主題	所属演習
荒木 穂積	教 授	発達心理学	人間発達における質的転換期 と発達保障の研究/発達障害 の治療教育プログラム開発	発達·福祉臨床
石井 信子	嘱託講師	臨床発達心理学	母子臨床	
岡本 茂樹 博士(臨床教育学)(武庫川女子大学)	教 授	臨床教育学 臨床心理学	非行・犯罪の心理/ロールレタ リングに関する効果の研究	臨床心理
岡本 直子 博士(教育学) (京都大学)	准教授	臨床心理学 表現療法	「ドラマ」がもつ心理臨床学的 意味の研究/ドラマ的要素を 帯びた新たな技法の開発	臨床心理
尾上明代	教 授	ドラマセラピー	さまざまな対人援助の場/対象に役立てるドラマセラピー の技術/方法の研究	家族機能•社会臨床
高垣忠一郎	教 授	臨床心理学	不登校・ひきこもり援助とカウ ンセリングの研究	臨床心理
滝野 功久 Doctorat d'Université (パリ第5大学)	教 授	集団力動論 家族学 比較心理療法論	個人と集団の〈学び〉と〈成熟〉 に必要なことはなにか?	臨床心理
谷 晋二 博士(心身障害学)(筑波大学)	教 授	応用行動分析学	障がいのある人とその家族へ の包括的支援	障害·行動分析
団 士郎	教 授	家族療法	家族援助の実際	家族機能·社会臨床
土田 宣明 博士(人間科学)(大阪大学)	教 授	発達心理学	行動調節機能の検討	発達·福祉臨床
徳田 完二 博士(教育学) (京都大学)	教 授	臨床心理学	イメージを用いた心理的援助 に関する研究	臨床心理
中川 吉晴 Ph.D.(University of Toronto)	教 授	臨床教育学	ホリスティック・アプローチの 研究	人間形成·臨床教育
中村 正	教 授	社会学(含社会福祉関係) 社会学·社会病理学	臨床社会学の研究	家族機能·社会臨床
中村隆一	教 授	発達心理学	発達診断法の実践的検討	発達·福祉臨床
野田 正人	教 授	司法福祉論 児童福祉論 教育臨床論	子どもと家族のソーシャルワーク、特に非行、虐待、スクールソーシャルワーク	
林 信弘 博士(文学) (立命館大学)	教 授	意識分析学 教育哲学	意識の人間学	人間形成·臨床教育
藤信子	教 授	臨床心理学 集団精神療法 コミュニティ心理学	コミュニティ・ケアにおけるネットワーク、集団精神療法とその 応用	障害·行動分析
村本 邦子 Ph.D.(The Union Institute)	教 授	臨床心理学 (とくにトラウマ心理学) 女性学	女性のトラウ <mark>マ</mark>	家族機能·社会臨床
望月 昭 博士(心理学) (慶應義塾大学)	教 授	行動福祉学 応用行動分析学	障害のある個人に対する行動 的教育福祉援助	障害·行動分析
★応用人間科学研究科ホームページアドレス ······ http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/gsshs/index.html				

修士論文テーマ

[人間形成・臨床教育クラスター]

- 昔話と自己探求 -河合隼雄『昔話と日本人の心』を めぐってー
- 育 |を読み解く-
- ●運動機能からみるヒトの進化 -かつてヒトの祖先 は水棲していたー
- ●「自発性」をめぐる関係性の構築について ー「プレイ バックシアター」実践を通じて一
- ●「私」的出会い論 -木村敏の〈あいだ〉-木村素衛の表現愛
- ●「まことのさいはひ」を索めて生きるということ 一宮 | ●脱青年期におけるキャリア形成への支援 ーキャリア 沢腎治を読むー
- ●看護の実践知 民衆仏教に学ぶ看護の立居振舞
- ベルグゾンの直観論
- ●「久高島」という空間 ー自分が自分で在れる場所-●哲学するからだ ――人称の身体の現象学試論―
- ●世阿弥の習道論に見る教育
- 「見る」ということ
- 一人称の科学としての心身論 ●看護師の行動規範と感情 -歴史的考察との関連- ●児童期の自己理解の発達 -20答法とインタビュー

[障害・行動分析クラスター]

- ●「イメージ形成支援読解法」による読み手の文章理解 求められる援助距離の統制を考えるー
- ティビティに与える影響 特別支援学校における組織行動マネジメントへの提小規模作業所における精神障害者の地域生活支援の 言 - K市における「個別の包括的支援プラン」シス 意味の検討 - 当事者の「語り」から-

テム機能化を目的とした戦略の提示 [家族機能・社会臨床クラスター]

◆未婚で妊娠した若年女性の選択 一「結婚期間が妊 ティティの変化と教育的支援 娠期間よりも短い出生」をした女性へのインタビュー ●自己愛の機能的側面と適応の諸相についての検討

- ●住民と保健師の関係性から考える保健師実践のあり 【**臨床心理学領域**】 方 −高齢者筋力トレーニング自主グループの形成 | ●「社会的ひきこもりと向き合う父親の対処行動と心理 プロセスにおける相互作用の分析からー
- ●デューイにおける「経験」の教育 -『民主主義と教 | ●子どもの性被害に関する母親グループの意識の変化、 | ●CRPS患者の苦しみの構造と和解のプロセス 慢性 についての研究 ーグループディスカッションを用い たアクションリサーチをもとにしてー
 - 視する構造 -エコロジカルな現実を明かす動機の 語量から一
- ●邦楽からみた日本人の身体知 -筝をとおした考察 |●母子家庭とひとり親家庭の〈あいだ〉 -ひとり親とし
 - ての日常実践例の考察を通して一 ●地域に根付く伝統的子育ての世代間伝達 -関係志 向型女性が築く地域性ー
 - 環境変化対応(career adaptability)の構造ー
- ●育てることを通して成長する -保育士と子どもの関 ●「しょうがない」と自己の人生を受け止めて生きる -壮年期に発症した脳血管障害者夫婦でつくる語りか
 - 申期親子関係における母娘関係についての一考察 - 母親の主観的な語りを通して-

「発達・福祉臨床クラスター]

- ●成人期女性の職業発達と就業継続へのサポート -分析より一
- 調査の分析を通して一 ●臨床看護における「援助距離」の研究 −看護援助に
- レベル向上におよぼす効果 状況モデルに重点を │ ●中学生の友人関係の変化の検討 学年差·性差、自
- ●行動レパートリーの増加における問題解決とクリエイ | ●学童期における自閉症スプクトラムの遊びと対人的交

 - ●発達障害児をもつ母親の育児感情 -夫婦の育児行
 - 動における協力関係に着目して一 ●看護基礎教育課程における学生の職業的アイデン

入学試験について 一般方式をはじめ、社会人一般方式、社会人自己推薦方式、社会人協定方式などによる入学試験を行っています。 受験資格などの詳細は入試要項や研究科ホームページにてご確認ください。

- 過程 一生涯発達における停滞性の意味ー」
- 疼通と共に生きる人たちのM-GTAによる語りの分析
- ●女性が職業選択時において「地理的条件のよさ」を重 ┃●学生ボランティアによる非行少年の立ち直り支援に関 する検討 - 京都BBS連盟における「ともだち活動」を
 - ●自己開示への認識と実際の自己開示量の関連性につ いて -青年期における男女の違いを中心として-
 - ●依存性と信頼感の関連に関する研究 -依存の拒否 に焦点をあてて-
 - 医療法人職員の職業的ストレスとバーンアウト 一年 代・職種経験年数・勤続年数・職種間比較を手がかり
 - ●野宿者の自立支援施設における支援者と利用者のズ
 - SEIQoL-DWから捉えた個人のQoL 一筋ジストロ フィーの病いを伴う人の語りから一
 - ●婚外恋愛における主観的意味づけの分析 夫婦関係 を大切に婚外で恋愛する男性の語りから
- ●住民の「証言的語り」からみた嘉手納米軍基地、航空 働きがい、生きがい、個人志向性、社会志向性尺度の 機爆音被害の意味 ー他者への呼びかけとしてのイ
 - ●高校生に対する心理教育プログラムの実践的研究 ープログラムの効果の検討と使用されたワークの特 性分析一
 - ●援助における「文化」 -フィリピン人DV被害者女性 の語りを通しての考察-
 - ●健常者の妄想的観念に関する研究 一微小妄想的観 念と疎外妄想的観念との多次元比較一
 - ●統合失調症の当事者をケアする援助者が直面する困 難とその対処 ーケアに内在する肯定的側面にも注
 - ●〈生きづらさ〉を抱える若者の2事例 −若者自立塾 Y-MACの若年無業者就労自立支援の取組みを通して

修了者の進路・就職先[{

社会人入学者勤務先[6

精神科診療所[心理士] 保健所、公立幼稚園[相談員] 社会福祉法人[指導員] 公立小学校[教員] 公立養護学校[教諭] 公立中学校[養護教員] 公立聾学校[寄宿舎指導員] 財団法人[幹事] 子ども支援センター 「地域活動員] 在宅介護支援センター[社会福祉士] 精神障害者地域生活支援センター[ワーカー] 公共職業安定所[精神障害者担当職業相談員] 町役場[福祉事務] 障害者授産施設[支援員] 看護短期大学[教員] 医療短期大学[教員] 看護短期大学・精神看護学[講師] 看護専門学校[教員]

医療法人[看護士]

医療法人[作業療法士] 市役所[職員]

福祉専門学校[専任教員] 老人総合センター 社会福祉法人 出版社 大学実習助手 医療福祉専門学校[講師] 介護サービス相談センター[専門相談員] 児童福祉施設「専任職員」 生涯学習センター [契約職員] 重度知的障害者授産更生施設[支援職員] 高等学校[専任教員] 国立療養所 広域衛生管理組合[心理判定委員] 保健センター[心理判定員] 精神保健福祉総合センター 医科大学[助手教官] 聴覚障害者センター

児童養護施設[児童指導員]

スクールカウンセラー 看護短期大学[助手] 嘱託発達相談員 医療福祉専門学校[教員] 公立看護大学[助手] 児童厚生員 福祉専門学校[講師] 介護法人保健施設 新聞計「専門職」 地方上級福祉職[専門職] 博物館[学芸員] 大学職員 立命館大学大学院博士後期課程進学 専門職公務員[心理職] 私立中学校[心理相談員] 民間[電気メーカー] 民間[余融] 民間[コンサルティング] など

子ども家庭相談センター

応用人間科学研究科

立命館大学応用人間科学研究科ホームページ URL http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/gsshs/index.ht

〈衣笠キャンパス〉〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

お問合せ先 独立研究科事務室 Tel.075-465-8375(直通) 入試要項請求先 立命館大学大学院課 Tel.075-465-8195



現職社会

にも対

ます

学し 7一 门兀 育

立命館大学大学院応用人間科学研究科は、21世紀の幕開けとともに開設され、2011年度に は10周年を迎えます。本研究科は、対人援助(ヒューマンサービス)という社会的営為について、 従来の学問領域を超えて融合し、対人援助に携わる人たちが連携のできる新しい学問領域を、 教員と院生が協力して追求していこうとする大学院です。心理学、教育学、社会福祉学など諸科 学の「連携と融合」による対人援助の研究・教育分野を創造し、この分野の高度専門職の養成 をめざしています。この10年間に、500名をこえる修了生を社会に送りだし、地域に根ざしつつ 対人援助の領域で大きなネットワークの形成にとりくんでいます。

次の10年の歩みをすすめるにあたって、このたび次のようなアドミッション・ポリシーをさだ めました。

- (1) 対人援助を諸科学の融合と連携の観点から総合的にとらえようとする人
- (2) 対人援助を人間性と科学性を統一させてとらえようとする人
- (3) 対人援助の実践と理論を相互還流させてとらえようとする人
- (4) 人びとのニーズを社会へ向けての権利擁護の姿勢をもってとらえようとする人
- (5) 対人援助の新しい科学の創造に高いこころざしと意欲をもって挑戦しようとする人
- このようなこころざしに賛同する人びとが集う研究科にしていきたいと思っています。

本研究科では、アドミッション・ポリシーを現実化するためのとりくみとして、グループ学習お よびチームティーチングを重視しています。お互いに切磋琢磨し合える学びの環境をととのえ、 教育・研究の場でも互いに支え合い、励まし合う人間関係の醸成に努めています。本研究科に は、心理学・教育学・福祉学などの従来の学問領域にとどまらず、さまざまな学部から進学して くる院生がいます。また、すでに対人援助に関わる職業的経験をもつ社会人院生がいます。お 互いの背景のちがいをこえて協働し、新しい対人援助の高度な専門的技能と対応力の習得に とりくんでいます。

"Think Globally, Act Locally" 「理想は大きく、とりくみは足もとから」

この言葉は本研究科の特徴をよく表しています。対人援助の領域を見すえていくには大きな 理想と広い視野が必要です。そして、対人援助の営為は身近でつねに具体的で実践的なかたち となってあらわれます。対人援助に関する研究・教育分野の創造には人間性と科学性の統一が 求められます。理論と実践の発展のためには「実践から理論へ、理論から実践へ」その絶え間な い相互環流が必要です。そして人びとのニーズを社会のニーズとつなげる権利擁護の姿勢や 態度が求められます。

立命館学園は全学園の人材育成の目標として「人類の未来を切り拓くために、『未来を信じ、 未来に生きる』の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもっ た地球市民として活躍できる人間の育成に努める。」(立命館憲章より)ことをめざしています。 本研究科は学園の理念を大学院教学において対人援助の領域で開花させるべくとりくんでい ます。

応用人間科学研究科の教育・研究の対象は「対人援助(ヒューマンサービス)の科学」です。これには、

本研究科は、こうした一連の対人援助の諸分野における高度専門職業人の養成をめざしています。

さらに、より発展的な研究・実践の推進をめざし、心理・教育相談センター、人間科学研究所、各種研

直接援助の技法と理論だけでなく、援助者の援助(間接援助)、援助システムの構築なども含まれます。

カリキュラム について

対人援助の幅広い領域に 人間科学の視点から

臨床心理学領域と 対人援助学領域の 二つの体系的カリキュラム。 本研究科は2つの領域を開設しています。各々の領域に対応した高度専門職業人の養成を目標と しています。そのため、社会科学的なマクロ的視野と対人援助技術を有機的に結びつけることを重 視したカリキュラムを設けています。

究プロジェクトと積極的に連携して地域フィールドにおける研究・教学も展開しています。

本研究科では対人援助の現場で活躍する実践家を「社会人自己推薦入学試験」方式で受け入れて

対人援助学領域の講義時間帯は、現職社会人にも対応するために、5時限目以降の夜間時間帯を 中心に、夏期・冬期集中、土曜日集中などを取り入れています。

研究科独自の 国際交流活動を推進。 応用人間科学研究科では、海外から留学生を受け入れたり、研究者を招聘して学術交流に取り組ん だりしています。独自の国際交流活動としては、アジアの文化と西欧の文化の統合をめざして、ユ ニークな教育と研究を展開しているアメリカ、サンフランシスコのCalifornia Institute of Integral Studies (通称CIIS) や、ベトナム国立ハノイ師範大学障害児教育学科と学生・研究者交流プログラム を実施しています。

臨床心理学領域

臨床心理地域援助特論Ⅰ

心理療法特論



臨床心理学特論] 臨床心理学特論Ⅱ 臨床心理学基礎実習 臨床心理実習 臨床心理査定演習 臨床心理査定演習Ⅱ

臨床心理面接特論「 臨床心理面接特論Ⅱ 臨床心理学特別演習 応用人間科学基礎演習 応用人間科学基礎研究 臨床心理学演習Ⅰ

様々な心理的問題をかかえた人々に対するアセスメントや個人的・

集団的治療・援助の実際にふれながら、臨床心理学の基本問題、技

法、事例などについて、各担当者の専門性(病院臨床、教育臨床、文

化・社会臨床など)を活かして研究します。また教員相互、院生相互

の研究交流を通して、自らの心理臨床実践の専門性や問題意識を

心の苦悩に寄り添いながら、

その解決の道を模索する。

深めていく場として位置づけます。

臨床心理学演習Ⅱ 臨床心理学演習Ⅲ 心理学統計法研究 発達心理学特論 教育心理学特論 認知心理学特論

社会病理学特論 グループ・アプローチ研究

家族心理研究 臨床心理地域援助特論Ⅱ 精油医学研究 老年心理研究 学校臨床心理学研究



対人援助学領域



対人援助学演習] 対人援助学演習Ⅱ 対人援助学演習Ⅲ 対人援助学研究法「 対人援助学研究法Ⅱ 対人援助学研究法Ⅲ 対人援助実習

応用人間科学研究法 対人援助学特別演習 人間形成学特論 臨床教育学研究 行動分析学特論 精神保健福祉研究 発達障害援助研究

家族療法 • 家族面接技法 コミュニティ援助研究 生徒指導,進路指導研究 対人関係援助技術研究 教育評価,心理查定研究 組織行動援助研究 発達心理学研究

臨床心理学研究 障害学研究 福祉臨床学研究 学校カウンセリング研究 応用人間科学特論 ソーシャルワーク研究 ケアリング研究

臨床倫理研究 司法臨床研究 障害児教育研究 比較人間科学研究 比較文化臨床研究 インターンシップ

対人援助学領域では4つのクラスターを置いています



人間」とは何者か?そのあるべき姿 を意識研究の立場から究明する。

混迷する現代社会にあって、「人間とは何であり、また何 であるべきか」という問いが人間形成・臨床教育の地平 において、あらためて真剣に問われるべき時代がきてい ます。本クラスターの研究課題は、一般に「意識」と呼ばれ ているものを、人間学、哲学、心理学、精神医学、教育学、 社会学、宗教学、人類学、芸術学、歴史学など、多様な人間 諸科学の知見から学びつつ、しかも「意識と無意識」「心と 身体」「自然と精神」「物質と意識」といった従来の二元論 的パラダイムから「意識」を解き放ち、東西両洋のスピリ チュアルな見方をも取り入れつつ、理論と実践の両面か ら臨床的に考察するなかで、人間存在のホリスティックな

あり方を探求 🔲 し、自己実現、自 己成長のため の援助原理を 解明することに あります。



障害

障害」のある個人に対する 総合的対人援助を研究。

広義の「障害」を持つ個人を対象に、各個人がより十全な 生活を送れるようにすることを目標とします。諸活動を可 能にするための教育・訓練プログラムの作成とその実践 (教授的アプローチ)、障害をもちながらも先送りすること なく社会参加を可能にする援助機器や人的援助システ ムの設計・設定(援助的アプローチ)、それを環境に定着 させるために周囲に要請する作業(援護的アプローチ) の3つのアプローチをもとにして研究・実践していきます。 家族機能 社会臨床

家族機能障害と 社会病理について研究。

現代の家族が抱えるさまざまな機能障害を、社会行動学 的、臨床社会学的な観点から総合的に明らかにします。 家族関係の動態や社会病理を把握するための基礎理論 と技法、家族療法についての基礎理論、臨床社会学的ア プローチ、社会的相互作用過程分析、社会病理について の基礎データ分析手法、ジェンダー・アプローチなど、具 体的な事例分析を通して学習します。



人間発達の究明と それに対応した発達援助や 冨祉的ケアを研究する。

人間は、社会や環境に能動的に働きかけることをとおし て自分自身をも変えていくという自己実現のプロセスを あゆみます。このような人間発達のプロセスの究明とそ れに対応した発達援助や福祉的ケアを研究します。特 に、乳幼児期の子どもの発達とその支援、親子関係、児童 期・青年期の人格発達とその支援、成人期・高齢期の心理 的特徴や福祉的ケアなどを研究していきます。



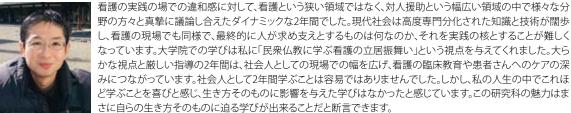
臨堀野英昭 005年3月修了 沙川厚牛福祉ヤンター つかば寮



私にとって、本研究科の魅力は2つあります。1つ目は『対人援助』をキーワードに、専門分野と隣接分野の学びが ともに可能であることです。私は、専門の臨床心理学を学びつつ、授業、ワークショップ、講演会等を通じて、福祉、 教育、医療についても学ぶ機会が数多くあり、その体験を通して、対人援助のスキルをアップさせるには幅広く知 識を習得することが必要だと実感しました。2つ目は、院生同士のつながりです。他の研究科に比べて院生が多く、 仲間と問題意識を共有しながら課題に取り組むことができます。様々な分野で活躍している方との交流は自分の 視野を広げることにつながります。また、『横』だけではなく『縦』のつながりも大切にされており、卒業生を含めての 交流会や勉強会が行われるので、卒業後も様々な形でネットワークが広がります。本研究科は、さまざまな領域で のスペシャリストを目指す人同士のつながりを大切にする研究科だと思います。

008年3日修了





、看護の現場でも同様で、最終的に人が求め支えとするものは何なのか、それを実践の核とすることが難しく なっています。大学院での学びは私に「民衆仏教に学ぶ看護の立居振舞い」という視点を与えてくれました。大ら かな視点と厳しい指導の2年間は、社会人としての現場での幅を広げ、看護の臨床教育や患者さんへのケアの深 みにつながっています。社会人として2年間学ぶことは容易ではありませんでした。しかし、私の人生の中でこれほ ど学ぶことを喜びと感じ、生き方そのものに影響を与えた学びはなかったと感じています。この研究科の魅力はま さに自らの生き方そのものに迫る学びが出来ることだと断言できます。

障太田和宏

7行政法人 高齢·障害者雇用支援機構 大阪障害者職業センター 南大阪支所 障害者職業カウンセラー



私が所属した障害・行動分析クラスターでは「援助」「援護」「教授」といった対人援助のアプローチを理論的かつ実 践的に学びます。クラスターのモットーは実践研究(と私は思ってますが)で、私自身は支援学校・大学生協と連携し 「学生ジョブコーチシステム」を立ち上げ、学生ジョブコーチとして活動しながら、支援学校での職業教育のあり方や ジョブコーチ支援の方法論について研究を深めました。活動や研究を通して、障害のある方が従事する職務の分析 介入すべき具体的な行動や目標を設定する視点、資料作りやプレゼンの技術、当事者にとって過不足の無い支援 の必要性(対人援助の価値観)等を学びました。現在障害者職業カウンセラーとして就労支援に携わる私にとって、 大変有意義な経験でした。また、当研究科は、学際的な講義や演習内容から学生の研究領域が多岐に渡る点や社 会人学生が多い点等が特徴的であい日頃の学生同士の交流がとても刺激的で人生の大きな財産になっています。

家 植村直子 2008年3月修了





私は行政の保健師として働きながら対人援助学領域で学びました。"応用人間科学"という名のとおりユニークな 研究科で、院生の年齢や立場も様々で医療職や福祉職、学校の教員など対人援助の仕事をしている人、対人援助 に興味を持っている人達がいました。またクラスターや授業でお世話になった先生方もとても魅力的で、このよう な素敵な先生方、友人達と学ぶことは本当に楽しく充実したものでした。修士論文では自分の保健師としての実 践から自主グループができるプロセスを分析しました。ケアをする側もケアを受ける側も相互作用で成り立って いること、相互的なコミュニケーションのプロセスにおける保健師の役割が説明でき、これまでの実践に納得でき ました。立命館で様々な人に出会い過ごした2年間は自分のこれまでを振り返り、これからを考える人生の節目で もあったようで、結果的に修了とともに転職することとなり、今さらに充実した日々を過ごしています。

008年3月修了



大学では心理学を学んでいましたが、より実践を意識した心理学研究を行いたく、応用人間科学研究科へ進学し ました。

進学以前はとかく定量的な研究のみに興味が偏りがちでしたが、研究科での先生方のご指導や社会人院生の方 との交流などにより、対人援助の実践に結びつくような学際的な研究の意識づけを強めることができたと考えて

修士課程修了後はそうした意識をより強く研究成果に還元したく考え、文学研究科心理学専修の博士後期課程へ 進学しました。現在は青年心理について、パーソナリティ心理学や臨床心理学の知見に基づき、量的・質的なアプ コーチの双方を用いた研究を行っています。

資格等 について 応用人間科学研究科では「教育職員免許状」の高等学校専修免許状(公民)ならびに中学校専修 免許状(社会)の課程認定を受けており、その所要資格が得られるカリキュラムを用意しています。 なお、専修免許状を取得するためには、その免許教科の一種免許状をすでに取得していることが 原則となります。

ユースワーカー [若者の自立を支援する専門職] 養成プログラム ニート、引きこもり、非行など多様な問題が指摘される若者の状況。そうした現代の問題に対応す るためには、単なる"原因探し"でなく、課題を抱えた若者への社会的な支援の枠組みが必要です。 その際に、ともすればばらばらに行われている多様な支援の営みを包括的に展開できるようにす ることが重要であり、支援をコーディネートする人材の問題、つまり若者の支援・育成の核としての 専門職の存在が求められるのです。それがユースワーカーです。

本大学院では、2006年から、全国初めてとなるユースワーカー養成プログラムを、財団法人・京都 市ユースサービス協会との協同プログラムとして設置しており、プログラム修了者は、京都市ユー スサービス協会の認定資格が取得できます。

臨床心理士の受験資格

学校心理士 · 臨床発達心理士 [対人援助学領域]

臨床心理学領域は(財)日本臨床心理士資格認定協会の定めるカリキュラムに対応した科目を設 置し、同協会から臨床心理士第一種指定大学院の認定を受けていますので、この領域を修了する と、直近の臨床心理士資格試験を受験することができます。

対人援助学領域では、心理学関連の学会連合資格である「学校心理士」や「臨床発達心理士」の資 格取得に関わる科目の一部を開講しています。ただし、資格取得には他の条件(さらなる科目履修や 実務経験等)も必要となります(本研究科開設科目のみでは認定資格を得ることはできません)。